

社会福祉法人 むすび会  
定 款

第一章 総則

(目的)

第一条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、市と一体となって、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫をすることにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

(1) 第二種社会福祉事業

(イ) 障害福祉サービス事業の経営

- ・就労継続支援
- ・共同生活援助

(ロ) 特定相談支援事業の経営

- ・特定相談支援事業（計画相談支援）

(名称)

第二条 この法人は、社会福祉法人むすび会という。

(経営の原則等)

第三条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、地域福祉の向上を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

(事務所の所在地)

第四条 この法人の事務所を長崎県佐世保市干尽町三番地一〇一に置く。

第二章 評議員

(評議員の定数)

第五条 この法人に評議員八名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第六条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事一名、事務局員一名、外部委員二名の合計四名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委

員会の運営についての細則は、理事会において定める。

- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の一名以上が出席し、かつ、外部委員の一名以上が賛成することを要する。
- 6 評議員は、この法人の趣旨に賛成して協力する者で社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有する者のうちから、評議員選任・解任委員会が選任する。

(評議員の任期)

- 第七条 評議員の任期は、選任後四年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
  - 3 評議員は、第五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

- 第八条 評議員に対して、各年度の総額が百万円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

### 第三章 評議員会

(構成)

- 第九条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。
- 2 評議員会に議長を置き、議長はその都度評議員の互選で定める。

(権限)

- 第一〇条 評議員会は、次の事項について決議する。
- (1) 理事及び監事の選任又は解任
  - (2) 理事及び監事の報酬等の額
  - (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
  - (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
  - (5) 定款の変更
  - (6) 残余財産の処分
  - (7) 基本財産の処分
  - (8) 社会福祉充実計画の承認
  - (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第一一条 評議員会は、定時評議員会として毎年度六月に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第一二条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第一三条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の三分の二以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第15条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第一四条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人二名は、前項の議事録に記名押印する。

#### 第四章 役員及び職員

(役員の数)

第一五条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 六名
- (2) 監事 二名

2 理事のうち一名を理事長とする。

3 理事で理事長以外の者一名を常務理事とすることができる。

4 常務理事を社会福祉法（以下「法」という。）第四五条の一六第二項第二

号の業務執行理事とする。

(役員を選任)

第一六条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第一七条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。また、業務執行理事は、理事長の命を受けて、この法人の業務を分担執行する。
- 3 理事長及び業務執行理事は、毎会計年度に四箇月を超える間隔で二回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。
- 4 理事長及び業務執行理事は、評議員会に出席しなければならない。

(事務局長の職務)

第一八条 事務局に事務局長を置き、常務理事をもってあてることができる。

- 2 事務局長は、法人が経営する事務を統括する。

(監事の職務及び権限)

第一九条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第二〇条 理事又は監事の任期は、選任後二年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した理事又は監事の補欠として選任された理事又は監事の任期は、退任した理事又は監事の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 理事又は監事は、第一五条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第二一条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第二二条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第二三条 この法人に、職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第五章 理事会

(構成)

第二四条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

2 理事会に議長を置き、議長はその都度理事の互選で定める。

(権限)

第二五条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

(1) この法人の業務執行の決定

(2) 理事の職務の執行の監督

(3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

(招集)

第二六条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第二七条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第二八条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第六章 顧問

(顧問)

第二九条 この法人に、顧問若干名を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議決を経て理事長が委嘱する。
- 3 顧問は、理事長の諮問に応じ、理事会に助言を与えることができる。

## 第七章 公益を目的とする事業

(種別)

第三〇条 この法人は、社会福祉法第二六条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 佐世保市障害者文化体育施設の経営  
サン・アビリティーズ佐世保の受託
- (2) 佐世保市福祉活動プラザの受託経営
- 2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の三分の二以上の同意を得なければならない。
- 3 運営管理等に関する事項については、別に定める。

(余剰が出た場合の処分)

第三一条 前条の規定によって行う事業から余剰金が生じた場合は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

## 第八章 資産及び会計

(資産の区分)

第三二条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産、公益事業用財産の三種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。
  - (1) 定期預金 100万円
  - (2) 不動産
    - ①土地
      - ア 佐世保市稲荷町159番 共同生活援助事業所敷地  
(228.42㎡)
      - イ 佐世保市東山町5番 共同生活援助事業所敷地  
(131.93㎡)
      - ウ 佐世保市東山町5番1 共同生活援助事業所敷地  
(79.99㎡)
      - エ 佐世保市黒髪町3791番1 共同生活援助事業所敷地  
(546.82㎡)
      - オ 佐世保市黒髪町3791番4 共同生活援助事業所敷地  
(75.90㎡)

カ 佐世保市黒髪町3793番1 共同生活援助事業所敷地  
(90.39㎡)

キ 佐世保市干尽町3番101 社会福祉施設敷地  
(3021.60㎡)

②建物

ア 佐世保市稲荷町159番地 鉄筋コンクリート造陸屋根2階建  
共同生活援助事業所 一棟(251.68㎡)

イ 佐世保市東山町5番地、5番地1 木造かわらぶき2階建  
共同生活援助事業所 一棟(176.72㎡)

ウ 佐世保市黒髪町3791番地1 木造スレートぶき平家建  
共同生活援助事業所 一棟(129.55㎡)

エ 佐世保市干尽町3番地101 鉄筋コンクリート造スレートぶき  
4階建 社会福祉施設 一棟(1899.39㎡)

オ 佐世保市干尽町3番地101 鉄骨造スレートぶき平家建  
社会福祉施設の車庫 一棟(49.35㎡)

3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第三〇条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する  
財産とする。

5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、  
必要な手続きをとらなければならない。

(基本財産の処分)

第三三条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び  
評議員会の承認を得て、佐世保市長の承認を得なければならない。ただし、  
次の各号に掲げる場合には、佐世保市長の承認は必要としない。

一 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

二 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福  
祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産  
を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）  
に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合  
（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第三四条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理す  
る。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託  
し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(特別会計)

第三五条 この法人は、特別会計を設けることができる。

(事業計画及び収支予算)

第三六条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始

の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第三七条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
  - (2) 事業報告の附属明細書
  - (3) 貸借対照表
  - (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
  - (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
  - (6) 財産目録
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。
  - 3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。
    - (1) 監査報告
    - (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
    - (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
    - (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第三八条 この法人の会計年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第三九条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第四〇条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の三分の二以上の同意がなければならない。

## 第九章 解散及び合併

(解散)

第四一条 この法人は、法第四六条第一項第一号及び第三号から六号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第四二条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

(合併)

第四三条 合併しようとするときは、理事総数の三分の二以上の同意を得て佐世保市長の認可を受けなければならない。

## 第一〇章 定款の変更

(定款の変更)

第四四条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、佐世保市長の認可（法第四五条の三六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を佐世保市長に届け出なければならない。

## 第十一章 公告の方法その他

(公告の方法)

第四五条 この法人の公告は、社会福祉法人むすび会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第四六条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	山崎辰夫
理事	松井忠義
	浜崎幸雄
	古賀市次
	宮崎莞爾
	佐々木孝之
	田代四郎
	佐藤達夫
	田中義朗

監事 安楽稔  
山口一男  
吉澤潤二

昭和六二年三月三十一日 法人設立認可  
この定款は、平成二九年四月一日より施行する。

附則  
この定款は、平成三〇年一〇月四日より施行する。  
(第一条の改正)

附則  
この定款は、令和一年八月二日より施行する。  
(第八条、第一五条、第一六条、第一七条、第二五条の改正)

附則  
この定款は、令和四年七月五日より施行する。  
(第一条の改正)

附則  
この定款は、令和四年一〇月一九日より施行する。  
(第三二条の改正)

附則  
この定款は、令和五年三月一四日より施行する。  
(第一条、第三二条の改正)

附則  
この定款は、令和八年六月一〇日より施行する。  
(第一条、第一五条、第三二条の改正)

附則  
この定款は、令和八年七月二日より施行する。  
(第五条の改正)